

みんなで支える森林づくり地域会議の主な質疑・意見 (H25, 11 末現在)

1 開催状況

地域会議名	開催日	出席委員数	備考
佐久	25, 8, 6	7	概要、実績・計画
上小	25, 11, 6	7	現調(2)、実績、進捗
諏訪	25, 10, 22	7	実績・成果、計画
上伊那	25, 7, 4	9	概要、実績・計画
	25, 10, 30	10	現調(3)
南信州	25, 7, 10	8	概要、実績・計画
木曾	25, 7, 11	7	概要、実績・計画
松本	25, 11, 14	7	現調(4)、実績、進捗
大北	25, 7, 19	6	概要、実績・計画
長野	25, 11, 8	6	現調(2)、実績、進捗
北信	25, 6, 25	8	実績・成果、計画

2 森林税活用事業別等の質疑や意見

【森林税全体】

- 県下各地で拡大している松くい虫対策に対し、森林税を活用して強力に取り組む必要性を強く感じる。
- 森林税で取り組んでいる里山の定義と事業の対象はどのようになっているのか。
- 市町村とすれば、森林税に関して、県からいただいた情報をいかに上手に団体や区に伝えていくかが課題である。
- 5年間の事業継続は地域にとってありがたく成果も目に見えてきており本当に感謝している。また、いろいろな協議を経て、新たに間伐材の利用の事業を取り入れていただき大変期待している。
- 森林税が有効に使われていることが、実際に集落のまわりを見るとよく解かる。1人年間500円いただいているが、森林の恩恵を受けている県民の皆さんから1,000円ぐらいはいただいてもよいと思う。
- 間伐材の利活用による継続的な森林づくりを進めることを目的に、新たな事業が始まっており、今までなかなかできなかった部分に対して取り組む事業が多くとても良いと思うのでしっかり推進してもらいたい。
- 森林税の使い方が明快に見えていないと感じる。例えば戦略的に生業と

して成り立つ林業を目指すなど、もう少しわかりやすい森林税の立ち位置があるとよいのではないかと思います。

【みんなで支える里山整備事業】

- 間伐実績が計画に対して毎年小さいがどのような理由か。
- 間伐、里山整備が実施され、数年経過すると光が入りヤブ化が進み、緩衝帯としての効果も無くなり、景観も悪くなるため、森林税という県独自の施策として、単価は安くてもいいので、再度下層整備ができるような、メニューを考えてほしい。
- 搬出・集積する作業にも森林税の新たな助成を行うことになり、商品になり地元の利用として確実な間伐材という条件は、出口の産業の振興という面も考えながら活用するという事は良い視点である。
- 自分の地域でも2年間かけて集落の周りの里山整備を行ったが、集落につながる道路も明るくなり、地域の住民の皆さんもたいへん喜んでいて。宅急便の人はこの地域はとても良いが、他の地域は進んでいないということを書いてきた。そのような事を考えれば、この事業がまだ完全に普及していないとも思うし、面的に計画性をもって地域の住民をその気にさせる取組が必要であると感じる。
- まだ実施していない集落の人たちに、里山の整備を行った集落や整備を行っている現場を見せ、地域の人々の声を聞かせて、進めていったらどうか。
- 昔は竹藪と木に覆われて昼間でも暗いような所で、雪が降ると車も通れなくなるような場所でしたが、里山整備をしたおかげで、雪が降っても危険がなく通れるようになり、すがすがしくなっている。そんな所にも森林税が使われていて整備されていることをつくづく思った。
- 1期目に関して各事業を見ると国庫補助事業、県単事業、税事業、などといった棲み分けが不明瞭に思える。2期目は明確にしてほしい。

【地域で進める里山集約化事業】

- 間伐を中心とした森林整備を相対的に進めていく上で、集約化作業という事業は非常に大事な部分で、一般の方々にも森林税の必要性や用途等を認識していただく大きなきっかけにもなることから、できる限り集約化への配分を多くしてもらいたい。
- 森林所有者がなかなかその気になってくれず、また不在村地主の存在が集約化のネックになっている状況である。
- 森林簿や計画図は所有者等の情報更新がされていないことが多く、集約化にあまり活用できない。所有者に関する詳細な情報を市町村がどれだけ提供してくれるかにより、作業の労力が大きく異なる現実がある。

- ヘクタール当たりの補助金単価 15,000 円～30,000 円であるが、条件によっては補助金を活用しても赤字になってしまう。搬出すればなおさらである。
- 林地の集約化について、不在村地主が居るとなかなか進まない。個人情報などいろいろな規制のある中で、森林組合が所有者の安心を高めるため、市町村の協力をお願いして都市に住んでいる方に説明に行くようなことで対応している状況である。集落や町村など地域を上げて協力をいただいているが、どうにかある程度解消するような仕組み・システムにしていきたい。
- 不在村地主の森林は、行政主導で整備していく手法の確立が必要である。

【みんなで支える森林づくり推進事業】

- どこの里山の森林整備が、森林税を使われて実施しているのか、地域メディアも含めて、もっといろいろな形で森林税を活用して実施していることをPRする必要がある。
- 森林税が県民アンケートの結果を見ると、約8割の支持を得て継続となったということは、実績が県民から評価を得たということだと思う。しかし、森林整備を主体に活用している訳ですが、森林税がどこに、どのように使われているのかという部分が、まだ県民に伝わっていないのではないかと思う。2期目で実施する事業は県民にわかりやすい形で実施、PRしていきたい。
- 森林税のパンフレットは見やすくてよい。回覧板や配布ものではたくさんの資料の中であまり見ないので、コンビニなどは良い取組である。さらに活用を工夫して、いろいろな会合などに出向いて、森林税の話をしていただき、森林税が何にしているという視点を重点にPRしてもらいたい。
- 地域会議に参加して森林税はどのように生活に返っているのか、その仕組みがよくわかって良かった。
- 私はこの森林税ができること、500 円を徴収するというよりも課税をすることで、皆が森林に注意を払ってもらうことを期待して森林税を創ったと思いました。それでも中には森林税を払っていても全く無関心の人もあります。努力はさせていただいていると思いますが、さらに県民の皆さんに森林づくりや森林税の使途に関心を持ってもらえる方法を考える必要があると思います。
- これまでの取組みの結果、森林税については県民に徐々に浸透してきているのではないかと認識しています。
- 集落周辺での森林税を活用した間伐等を進めている時、行政無線などを利用して、広く地域の人に森林税を活用している旨を普及したらどうか。
- 税金を納めている立場から、その使い道や効果的に活用しているという

アピールなど、PRの方もしっかり行って、税金を納めている側の納得が得られながら、継続して森林づくりを進める必要がある。

【森林づくり推進支援金】

- 森林づくり推進支援金で実施する森林整備や緩衝帯は、単発的な整備も可能となっていますが、2期目がスタートする本年度からは、単発的ではなく、市町村森林整備計画にも即し、将来の森林のあるべき姿を定め、それに向けて地域と施業協定を結び、発展性、継続的な森林整備や緩衝帯整備としてほしい。
- 木製品を設置して終わるといった完結型の事業が多いように思う。もっと、子供達を主体に地域の大人達を巻き込んだ継続的な事業展開ができればいいのではないかと。地域が山との関わりを持ち続けることができる仕組みを作る必要があると思う。
- 支援金を活用するこの事業に、NPOが加わって、市町村や地元、さらには企業等の森林の里親事業と結びつけ多角的に展開することは可能か。NPOはフィールドを探すことに苦労している。市町村とNPOが協力すればより効果的と考える。

【水源林公有林化支援事業】

- 事業の進め方と予定件数は如何。取得となると時間がだいぶかかると思われるが、繰り越しは可能なのか。

【信州フォレストコンダクター育成事業】

- フォレストコンダクターの養成人数で各地域がバランス良く配置できるのか。その人数で足りるのか。
- フォレスターやプランナー、昔から育成している林業士との連携が重要である。
- フォレストコンダクターになった人は、地域で実際どのような活動を行うのか。
- 豊かな森づくりは豊かな人づくりからなるかと思えます。新規事業である信州フォレストコンダクター育成事業については、地域に戻れば、需要側と供給側の現在の関係などを総合的に考えれば、地域を指揮できるような人材を育てることは、なかなか難しいと思えますが、活躍については大いに期待しています。

【木育推進事業】

- 子供達の教育が一番重要であり、森林税の2期目からは子供達への教育に力を入れるべきだと考えます。子供達のために、森林を再生させるには

何をすべきかを考えた方がいいと思う。親から子へ、子から孫へと引き継がれるような里山づくりを教育に取り込むべきである。木の大切さ、水の大切さを伝える心の教育が大事だと思う。そのような観点でもっと木育推進事業は拡大して取り組むべき。

- 建築士会に所属していますが、木育事業にもっと連携して進めて行きたいので調整をお願いしたい。
- 中学校で実際に関わり、子供達の反応や理解が心配であったが、実際にやってみると、木の香りに驚くなど子供達は興味津々であり、感動する子供もおり、大変すばらしい取組であるため、もっと拡大して実施すべきである。
- 10/10 の補助率が基本であるが、それぞれの取組で対象、対象外など事業費のとらえ方で違いがあり、査定により見直しされた結果との説明であったが、補助率の違いについて客観的な説明が必要である。
- 木育について、子供たちが道具を使って物を作るということを、全市町村で計画的にやっていただきたい。学校の希望があれば教育事務所でまとめていきたい。
- 子供達が木に触れ、木を通した体験することは非常に重要であるが、実施している学校が山側の学校が多いので、いろんな意味を含め、街中の学校でも進める取組が必要ではないか。

【信州の木活用モデル地域支援事業】

- 信州の木活用モデル地域支援事業や木育推進事業のようなソフト関連事業は、県民側の視点からすれば木質資源の活用や木に触れ親しむなどとてもよい取組だと思う。
- もっと、この事業はモデル地域を各地区に増やし、一般県民の目に触れ、森林税がこんな身近に活用されていることを普及すべきである。

【里山利用総合支援事業】

- 学校の先生が教えられない分野を地域の皆さんが子供達に教えてあげる「コミュニティースクール」が、県内には5校ほど取り組んでいる。この取組と里山利用総合支援事業を組み合わせ、地域の人たちが地域の里山資源を使って、子供達に何を教えてやろうかと考え、実施していくことは大変重要であり、子供達が里山を楽しんで利用し、さらに大切さも理解するような取組として展開したらどうか。
- 地域によっては里山を利用して頑張っている集落がある。そんな集落にお金が回り、里山が健全になるよい事業である。
- 里山利用総合支援事業などの情報が、これを必要としている小さな団体や区にきめ細かく伝わっていない。何か良い方法はないか。

【地球温暖化防止吸収源対策推進事業】

- 森林の里親に参加している企業を対象としているが、事業を拡大し、この集落、町村での森林税を活用した間伐で、森林吸収源対策としてCO₂削減がこれだけ進みましたというような、CO₂削減量を身近な範囲で数値化し、それをPRすると、県民の皆さんも捉えやすく、森林整備の効果や森林税の用途などの普及につながるのではないかと。

【その他】

- 松枯れが目につくが、枯れてから伐るのか、枯れる前に伐るのか、どちらも補助金がないと難しい。可能であれば枯れる前、先行伐採が可能となるような仕組みも考えていただきたい。
- ペレットストーブはとても良いと思うが、いかにせん本体が高い。各個人宅で手に入れやすい価格になり、県や市町村の助成が続けば、もっと木材の活用が進むと思う。また、地域の全ての保育園などにペレットストーブを導入すれば、木育としてもまた一般家庭への波及効果としても効果が高いのではないかと。
- 松くい被害が大きな問題。被害対策に森林税では焼け石に水の状態である。今後県ではどこまで守ろうとするのか。
- マツタケが重要なので、松くい虫対策を重点的にやってほしい。

平成25年度 県民会議・地域会議委員名簿

【敬称略、★座長】

【県民会議】

植木達人★	信州大学農学部 教授	
牛越徹	大町市長（長野県市長会）	
桑井裕至	（一財）長野経済研究所 上席研究員	合計 93名
麻生知子	信州そまびとクラブ 理事	
滝澤栄智	県森林組合連合会 常務理事	
貴舟豊	大桑村長（長野県町村会）	
堀越倫世	税理士	
浜田久美子	森林ボランティア、作家	
菊地誠一	長野朝日放送(株)代表取締役社長（経営者協会）	
尾崎洋子	県消費者団体連絡協議会 幹事	
松岡みどり	KOA森林塾 森づくり啓発担当	
杉山紘子	根羽村森林組合	

（計12名）

【佐久地域会議】

井出高明	北相木村長
油井郁恵★	南佐久南部森林組合専務
小林慶志	長野沖電気(株)総務課長
新海清実	佐久森林組合業務課主任
由井正隆	(株)吉本社長
小山もと子	小諸消費者の会会長
竹垣英信	NPO森のライフスタイル研究所代表理事
花岡秀樹	小海高等学校教諭

（計8名）

【上小地域会議】

丸山輝人★	長和町役場産業振興課長
矢ヶ崎雅哉	上田商工会議所事務局長
裕沢康博	信州上小森林組合参事兼企画課長
菅沼久美子	東信教育事務所生涯学習課長
田中雄介	上小木材青壮年団体連合会会長
上原栄子	青木村農業女性グループ
別府恒	上小地区生産森林組合連絡協議会長
加々美貴代	NPO法人やまぼうし自然学校代表理事

（計8名）

【諏訪地域会議】

細川忠國	諏訪木材協同組合長
小林利行	神宮寺生産森林組合組合長
小平榮三★	諏訪森林組合理事
中村くすみ	(有)カクダイ製材所
片倉正行	元 林業総合センター所長
牛山義登	茅野市産業経済部農林課長
藤森峰子	会社員

（計7名）

【上伊那地域会議】

武田孝志★	信州大学農学部教授
唐澤孝男	南箕輪村産業課長
竹松杉人	南福地森林整備委員会委員長
高山美鈴	木材利用有識者
橋本けさち	介護士
辻井俊恵	長野県建築士会上伊那支部幹事
石神守雄	登美屋建設(株)代表取締役
森敏彦	上伊那森林組合参事
代田和美	駒ヶ根市消費者の会会長
古畑愛	おもちゃコンサルタント

（計10名）

【南信州地域会議】

新井優★	伊那谷の森で家を作る会副会長
大蔵忠彦	飯伊木材協同組合理事長
清水衆一	長野県商工会連合会南信チーム チームリーダー
矢島美恵子	飯田消費者の会会長
村松久一	林業家（指導林家）
矢澤由美子	長野県地球温暖化防止活動推進員
大久保憲一	根羽村長（根羽村森林組合長）
伊東和美	この指とまれつながら逢いの会

（計8名）

【木曾地域会議】

神村光雄★	木曾森林組合組合長
唐沢達夫	藪原生産森林組合組合長
栗屋正一	きさらぎの里景観形成委員委員長
下原洋	木曾林業女性ネットワーク協議会代表理事
瀬戸晋	王滝村長
長瀬昭子	農業農村生活マイスター
古幡和久	木曾町カラマツ対策協議会会長
古根妙子	殿地区郷土の森林整備組合

（計8名）

【松本地域会議】

飯森紀元	筑北村長
川上則文	安曇野市商工会事務局長
坂井平治	松筑木材協同組合理事長
佐藤喜男★	森林環境教育研究室長
滝沢和子	松本市消費者団体連絡協議会長
白川良昌	松本林業士会副会長
西村いそ子	松本フォレストレディクラブ会長
増田富重	松本広域森林組合専務理事

（計8名）

【大北地域会議】

平林明人	松川村長
嶺村和徳	大北森林組合組合長理事
浅見昌敏★	大北木材協同組合理事長
香山由人	大北林業研究グループ林業士部会部会長
菅澤由美	看護広域ケア研究会代表
丸山美栄子	東中原町自治会長
鷲沢恒夫	大町市商工会議所事務局長

（計7名）

【長野地域会議】

松木重博★	信濃町長
十木謙一郎	長野森林組合専務理事
島田保彦	指導林家
高橋直彦	長野地方林業研究グループ連絡協議会顧問
高橋克典	社団法人長野法人会事務局長
中島佐代子	NPO法人信州フォレストワーク理事長
松橋正	生活協同組合コープながの総合企画室担当部長
堀幸一	社団法人長野建築士会長野支部幹事
峯村宗次	長野木材協同組合副理事長

（計9名）

【北信地域会議】

竹節義孝★	山ノ内町長
高森壽實夫	北信州森林組合代表理事組合長
桑原重雄	栄村森林組合代表理事組合長
宮崎正毅	NPO法人北信州の森林と家をつなぐ会代表理事
上原章仁	みどりの少年団北信地区協議会（秋津財産区管理委員）
竹節高四郎	自然公園指導員
佐藤勝志	北信猟友会（野沢温泉村猟友会長）
笹岡紀美雄	指導林家（県山林種苗協同組合北信支部長）

（計8名）